

平成21年4月28日

各位

上場会社名 株式会社システムプロ
 代表者 代表取締役会長 逸見 愛親
 (コード番号 2317)
 問合せ先責任者 常務取締役 国分 靖哲
 (TEL 045-640-1401)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年12月4日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年10月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年11月1日～平成21年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,627	889	1,179	817	3,661.61
今回発表予想(B)	4,394	804	787	459	2,057.95
増減額(B-A)	△233	△85	△392	△358	
増減率(%)	△5.0	△9.6	△33.2	△43.8	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年10月期第2四半期)	4,462	789	967	546	2,408.62

平成21年10月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年11月1日～平成21年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,762	1,915	2,445	1,667	7,462.71
今回発表予想(B)	8,657	1,485	1,452	845	3,786.87
増減額(B-A)	△1,105	△430	△993	△822	
増減率(%)	△11.3	△22.5	△40.6	△49.3	
(ご参考)前期実績 (平成20年10月期)	9,603	1,816	2,153	1,275	5,661.90

平成21年10月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年11月1日～平成21年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,461	864	889	543	2,421.47
今回発表予想(B)	4,221	810	847	519	2,314.82
増減額(B-A)	△240	△54	△42	△24	
増減率(%)	△5.4	△6.3	△4.7	△4.4	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年10月期第2四半期)	4,309	853	844	410	1,800.26

平成21年10月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年11月1日～平成21年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,430	1,865	1,935	1,185	5,281.86
今回発表予想(B)	8,331	1,489	1,575	970	4,322.97
増減額(B-A)	△1,099	△376	△360	△215	
増減率(%)	△11.7	△20.2	△18.6	△18.1	
(ご参考)前期実績 (平成20年10月期)	9,292	1,863	1,924	1,057	4,675.31

修正の理由

当第2四半期の日本経済は、昨秋以降の世界同時不況の影響によって大きく悪化しており、国内企業の急速な業績悪化に伴って市場の縮小が進んでおります。

これに伴い、当社につきましても平成20年12月4日に公表いたしました業績予想を下回る見込みとなりました。

個別業績につきましては、移動体高速データ通信事業におきまして、移動体通信端末の買い替え期間の長期化が進んだことに加え、メーカーの業績不振による移動体通信端末の開発中止や延期が重なり、2009年春および夏モデルの開発が大幅に縮小したことにより、平成21年2月以降、春・夏モデルの受注が前回予想を下回る見込みとなりました。当第3四半期にかけても夏モデルの受注が見込みよりも減少する見通しではありますが、2009年冬モデルの開発計画が当社のクライアントである移動体通信キャリアや移動体通信メーカーにおいて徐々に動き始めており、当第4四半期には受注が回復する見込みとなっております。

情報システムサービス事業におきましては、景気悪化の影響を受けて情報システムへの投資が大幅に減少しており、特に3月期決算の企業におけるこの4月からの期初の投資が抑制されたことにより、当社の受注も大きく影響を受けており、前回業績予想を下回る見込みとなりました。

今後の見通しといたしましては、大手ポータルサイトの開発等で培った技術・ノウハウを活用し、販路を拡大するため、期初から営業力の強化を推進してまいりましたが、その効果が徐々に始まり、当第3四半期中からは受注の回復を見込んでおります。

また、平成21年4月23日に発表いたしました通り、持分法適用関連会社のカテナ株式会社と共に、大きな発展が見込まれるクラウドコンピューティング事業を始めるなど、今後の業績の回復や拡大に向けた取り組みを行ってまいります。

以上のように両事業とも当第3四半期中から、急速に業績が回復する見込みではありますが、第2、第3四半期の受注の減少を補うまでには至らない見込みとなりましたことから、当第2四半期累計期間につきましては、売上高4,221百万円、営業利益810百万円、経常利益847百万円、四半期純利益519百万円、通期につきましては、売上高8,331百万円、営業利益1,489百万円、経常利益1,575百万円、当期純利益970百万円となる見込みであります。

連結業績予想につきましては、株式会社ProVisionにおきまして、主力である移動体高速データ通信事業の評価業務の売上が当社と同様の理由によって減少しており、その影響を受けております。

また、経常利益につきましては、前回予想に対し、当第2四半期累計期間で392百万円の減少、通期で993百万円の減少となる見込みであります。この主な要因は、持分法適用関連会社のカテナ株式会社における投資有価証券評価損の計上、および同社における前回業績予想に対する事業面での減少により、当第2四半期累計期間で当社持分344百万円の減少、通期で当社持分572百万円の減少の影響であり、このうち同社の投資有価証券評価損に伴う当社持分影響額は249百万円となっております。

四半期純利益および当期純利益につきましても、上記持分法適用関連会社の影響により、当第2四半期累計期間で四半期純利益459百万円、当期純利益845百万円となる見込みであります。

なお、当期の配当につきましては、1株あたり年間配当2,400円(第2四半期末配当1,200円、期末配当1,200円)を予定しており、前回予想から変更はありません。

平成21年10月期第2四半期決算短信は6月3日に公表を予定しております。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上